

資料館だより

発行所

高松宮記念ハンセン病資料館
〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13
電話 0423-96-2909
FAX 0423-96-2981
郵便振込 東京-3-764159
高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

「いわれなき偏見と差別をなくそう」との願いをこめた母娘遍路像の開眼式が一月二十日、高松宮記念ハンセン病資料館において行われました。

当曰は藤楓協会、資料館全生園施設、全恵協、自治会、真言宗大師講、像制作関係者等五十数人が出席、真言宗智山派東京北部教区九カ寺の僧侶による開眼法要の後、式辞、祝辞、感謝状贈呈、祝電披露等が行われました。会場には真言宗智山派總本山智積院、大本山川崎大師、大本山成田山新勝寺、世界ハンセン病友の会等よりの生花が飾られ華やかなムードに包まれました。次に母娘遍路像建立の全てを語る式辞を紹介します。

「いわれなき偏見と差別をなくそう」との願いをこめた母娘遍路像の開眼式が一月二十日、高松宮記念ハンセン病資料館において行われました。

母娘遍路像で開眼式

子遍路おくれけり

お遍路は信仰の旅である

と同時に職を奪われ、故郷を追われた人々の生活を支える旅でもありました。

地元ではお遍路を温かく持成す「お接待」の風習があり、病者たちはこれに残

る命の糧を求めました。不自由な躰で八十八ヶ所札所を巡る旅は決してた易いことではなく、道半ば無念の死を遂げた人々の遍路墓には、今もその悲しい姿をとどめています。

わが國のハンセン病患者たちが辿つてきた、こうした苦難の歴史を世に遺し、二度と云われなき差別と偏見に泣く人々を出さぬようとの願いから、平成三年、

全生園真言宗大師講では遍

路像の建立を発願、全国の方々に呼びかけ津々浦々よ

り、心温まる激励の言葉や

花見のお客さん 資料館へもどうぞ

多くの善意と信頼によつて

完成しました。

昨秋完成した遍路像は一

旦は四国・善

通寺の山内に

建立されました。

たが、地元療養所の人々の希望もあつて当高松宮記念ハンセン病資料館に移転、展示させて戴くことになりました。



こうした経緯を通して母娘遍路像は、国内にはまだまだ癒し難い心のキズを庇いながら生きる多くの病者のいることを証明しております。

母娘遍路像が当資料館を訪れた参観者を通して偏見のない明るい社会を実現する記念碑として訴えつけます。

母娘遍路像建立委員会

代表 三輪照峰

吉田竹蔵

全国各地よりの来館 一日平均44人

四月に入るとともに樹木の緑も色を増し、すっかり春めいて参りました。

韓国、台湾の方も来ております。「来館者の声」も一般三三・児童一五三・計四八五通が寄せられ、関心の深さを示しております。

平成六年三月二十六日の十三時三十分より二時間にわたり、成田稔多磨全生園名譽園長（当資料館運営委員長）を講師として、ハンセン病についての公開セミナーが開催されました。

参加者は、予約、当日の申し込みを含めて五九人でした。内容は男性三五人、女性三四人ですが、この中には職員と職員OB十四人、入園者十三人も含まれております。

高松宮記念ハンセン病資料館の開館一周年を記念して「らい予防法」改正問題をめぐってのシンポジウムを計画しました。

期日 6月25日・13時30分

場所 全生園公会堂
講師は藤楓協会、所長連盟全恵協、その他一人を予定しております。大勢の皆様のご来場をお願いします。

岡村大三氏の「指笛公演」

資料館の開館一周年を祝して、指笛の第一人者、岡村大三氏が慰問公演をしてくださいました。

期日は6月25日午後一時より全生園コミュニティセンターで、シンポジウム開催までの三十分間です。

岡村先生は八十歳ですが元気で各地で公演しておりクラシックですが、民謡、童謡などのレパートリーもありますのでご期待下さい。

一月は開館日数(16日)が少なく、寒さもあってか来館者数も二八八人(一日平均一四人)にとどまりましたが、その後は徐々に増え、開館以来二月末までの状況は、開館日数一七三日、来館者数七五七人(一日平均四四人)となっています。

団体来館者数は、九九团体三〇五五人で、全来館者数の四割強となつており、この状況は当分つづくものと思われます。来館者は東京都をはじめ近郊各都市、北は青森から南は鹿児島まで全国二九都府県に及び、



一階ロビーで医学解説を読む来館者

た。

改正問題をめぐって

資料館運営委員会では、

「戦前の写真展」「全生園、復生病院」の写真展(4頁参照)を開催します。なお、併せて神山復生病院の開院以来の生活、作業、娛樂などの写真も展示します。期日は4月20日より5月19日までです。

病の歴史をさかのぼつて、わが国のハンセン病対策の基本となつた〈絶対隔離〉の背景を考え、さらに〈らい予防法〉に

も言及したものでした。



ハンセン病に関する 公開セミナーの開催

看護学校などでした。

院看護学校、駿河療養所准

ン研究会看護学校、東京病

看護学校などでした。

された団体は、白梅学園短期大学、秩父准看護学校、白百合中学校、ともしび会修道女会、台湾省政府衛生処、曹洞宗宗務庁、朝日厚生文化事業団、大阪ハンセン病友の会、立教大学、ガ

申しひみを含めて五九人でした。内容は男性三五人、女性三四人ですが、この中には職員と職員OB十四人、入園者十三人も含まれております。

资料館では全生園の戦前の写真展(4頁参照)を開催します。なお、併せて神山復生病院の開院以来の生活、作業、娛樂などの写真も展示します。期日は4月20日より5月19日までです。

岡村先生は八十歳ですが元気で各地で公演しておりクラシックですが、民謡、童謡などのレパートリーもありますのでご期待下さい。

来館者の声

見る物、見る物に歴史を感じずる

会社員

56才 男性

ハンセン病の病理についてもつと詳しい解説があればよいと感じた。病気についての正確な理解があれば、ハンセン病についての故ない偏見がもつと少なくなる筈である。この点を啓蒙する解説板資料があればと思った。

示することで、痛みを心に刻んでおくことの重要性と必要性を確信する。

学生

19才 女性

このような事があつたことは、恐らく世の中の人々の半数以上は知らない様な気がします。もつと沢山の

かな配慮が行き届いていると感じ、また来ようと思いました。

無職

65才 女性

いろんな事件が起り、歴史はどんどん変わつて来たのが良くわかりました。

無職

65才 女性

もつと字が大きいといいのですが……。

学生

18才 女性

セイ病患者さんたちと接したり、実習させていただいたため、興味深く見学することができました。

学生

18才 女性

これから私たちが看護していく中で、患者さんの叫びにいつも耳を傾け、援助していくける看護婦になりた

学生

18才 女性

思ひます。暦の上では春とはいえ、まだ寒い日もござります。暮々もお体に十分お気をつけて下さいませ。

人がこの悲惨で不当な事を知るべきだし、それに対してもつと詳しい解説があればよいと感じました。又、この資料館は大変美しく、細

かな配慮が行き届いています。自分がなりたくてなった訳じゃないのに、本当に心から可哀相に思う。心が痛む。

つた。ほぼ根治可能な現在においても、未だ行動の自由を制限された収容所のあることが遺憾である。所内で頑張つていらつしゃる方々を応援いたします。

学生

18才 女性

「ハンセン病の子が来ているので給食がなくなつた」ということがありました。それがここにきて記録をみ

病院の近くに昭和30年頃住んでいました。黒髪小に通学していたので、遠い記憶に

前略 去る2月24日、私は共が資料館を訪れた際にはなにかと、御配慮、御指導いただき誠に有難うございました。ハンセン病の患者

セイ病患者さんたちと接したり、実習させていただいたため、興味深く見学することができました。

今は何もなかつたかの様な気がします。

これから私たちが看護していく中で、患者さんの叫びにいつも耳を傾け、援助していくける看護婦になりた

思ひます。暦の上では春とはいえ、まだ寒い日もござります。暮々もお体に十分お気をつけて下さいませ。

看護婦

53才 女性

いろいろな資料や展示物

病舎、衣類、食器等を見

授業などで話を聴いたり、勉強してきたことがすべてそろつっていました。

に生活している患者さんでいろいろな資料を見学したこ

るところが痛くなる。昔とは

奥深くの叫びを聞いたよう

いえ、患者さんには辛く寂しい思い…。今こうして展

興味深く見学

これからのかの様な見たい

主婦 37才 女性
自分がなりたくてなった訳じゃないのに、本当に心から可哀相に思う。心が痛む。

学生 18才 女性
今は良くなる方が多い様でよかつたと思います。献身的に尽くして来られた方々に感動致しました。

学生 20才 男性
ハンセン病患者の生活が、話やTVで聞いたものよりもよく見えるようになります。

学生 18才 女性
初めては趣味だけで入ったけど、心にグットくるものがあつて、見る物、見る物に歴史を感じました。ハンセン病を知っていると言つても、たいした知識ではないかったので、写真などを見て本当にこんなことがあつたんだなあとと考えさせられるものがありました。もう過去の病気になろうとしていますが、この事実だけは、必ずうつと伝えてほしい。

自営業 45才 男性
熊本のリデル・ライト病院の近くに昭和30年頃住んでいました。黒髪小に通学

して、遠い記憶に

「ハンセン病の子が来ているので給食がなくなつた」ということがありました。それがここにきて記録をみ

てびっくりしました。

全生園・昔むかし

一万一千枚の写真

全生園には創立当時から戦後までの乾板が沢山あります。最近は医局図書館に保存されていましたが、同館の老朽化もひどいため埃りを払ってたと同然の状態で汚損がひどいものの、少なく見積もつても一万二千枚、段ボール箱にして三十一個に達しました。

そのうち、約三分の一は誰でも、入所の際に撮られた覚えのある筈の「入所患者」の写真で、プライバシーの問題もあり、ガムテープでまた封じ込んでしまいましたが、三分の一は「患者研究」用であり、各種病体や研究、解剖、顕微鏡による細菌等、貴重な写真ばかりです。

あとは「皇室関係」をはじめ「慰問」「患者集り」「行

事」「作業」「建物」「患者芝居」などで、専用車輌と患者用人力車の写っている東村山駅や請願巡査の立つている最古の正門、四斗樽を並べ、芋洗いと同じやり方による洗濯作業や洗濯された包帯を山と積み上げ、何十人の女達による包帯巻きや児童たちのガーゼ伸ばし作業、裁縫場を建築中の大工や石道作りに励む土方達や、養蚕、農園、牛舎等

差し当つて三百枚、善意のボランティアに焼付けを依頼しており、さらにその中から四、五十枚を引き伸ばし、オープン一周年記念として研修展示室で公開する予定です。

「患者研究」用を含め、
「母娘遍路像」の開眼式典を行なう。

▽1月20日、母娘遍路像
▽1月25日、「母娘遍路像」資料館へ移設される。
▽資料館だより・第二号(二千部)発行。
▽1月8日、資料館仕事始め。

◎あとがき

1月は来館者の出足がわるく、館員五人にお客が一人という日もあつたが、2月12日の大雪の日に来館者0を記録した。

2月24日は一八〇人と二〇人の二つの看護学生など二三四人が来館。四班に分れてビデオや展示品を見るなど、てんてこまいであるなど、てんてこまいであった。しかし館員は「どんなに忙しくともお客様は多い方がよい」と言つている。(佐川)

患者作業のほか、大風子の注射場や外科場、お会式、祭礼、盆踊り、仮装大会、

近隣にも出品を求めての農産物品評会や林園長の餅搗き等、珍しいもの、はじめいちいちあげたらきりがありません。

▽12月5日、めぐみ新聞第三一〇号に「高松宮記念ハンセン病資料館」が大きく紹介される。
▽12月21日、埼玉近代美術館より借用展示され、た「病醜のダミアン」像を返送する。

▽2月8日～27日、阿部正英第三回パステル画展を開催。記帳者が二百人を超えて、看護婦OBも期間中大勢来館し賑わう。
▽2月10日、第八回資料館運営委員会を開く。

資料館日誌

前略——二月三日、リデルさんの命日に「リデル・ライト両女史記念館」が開館致しましたのでご案内致します。資料館の方に保存して頂ければ幸いです。

又、先月は県立美術館において、舟越保武展が開催されておりまして、初めて騒動もあつてか、マスクも「さわらぬ神にたたりな

面して参りました。

「菊池野」3月号に感想文を掲載しますのでご高覧下さい。

し」の姿勢で見られ全く取り上げられませんでした。ある意味では不幸中の幸いでした。やはり、この像是ハンセン病資料館や、ハワイのダミアン美術館に展示されるのが、ダミアン自身にとっても安住の場所ではないでしょうか。――

来信
菊池 太田明
「ダミアン像と対面